

この本、
いかがですか？

『母乳育児支援スタンダード 第2版』



NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会 編集
本体 4400 円＋税
B5 判／医学書院／2015 年

評者

永森久美子 聖路加産科クリニック

社会やニーズの変化に対応した エビデンスに基づく母乳育児支援を

本書の初版は、2007 年に出版された。この本を手にした時、数ある母乳育児支援本のなかでも、表紙が「女性を意識したコラージュ」というのがユニークだと思った。そして、いく度となく開き、マーカーを引き、ふせんを貼り、教育・実践の参考書として活用した。

今回の第2版は、初版よりボリュームがあり、目次を見比べるとかなりの再構成が行なわれていることがわかる。新たなエビデンスを盛り込んでいるため、引用されている文献数は多く、最新のものに書き換えられている。これだけの文献を自分1人で収集し、読み込むのは非常に困難である。また、母乳育児支援のエキスパートならではのコラムは説得力があり、支援する際の引き出しの1つになる。

「情報リテラシー」「母親の身体疾患」「産後う

つなど精神疾患」「災害時の乳児栄養」「母乳育児中の不妊治療」などは、社会の変化に伴って新しく書き加えられた章であろう。初版が出版されてからの社会やニーズの変化を振り返ることもでき、残念ながら育児環境がさらに複雑に、難しくなっていることがうかがえる。

また、人工栄養についてこれだけページを割いている母乳育児支援の本も珍しい。ここでは母乳育児支援者が知っておくべき知識、日本の人工栄養の概観等が簡潔に述べられている。人工栄養についての、より丁寧でエビデンスに基づいた説明をする際の一助になるに違いない。

私は、本書の初版で初めて「エモーショナル・サポート」という言葉を知ったように思う。それまでも精神的なサポートは必要だと思っていたが、なるほどと思わされたのを覚えている。第2版ではこれについての記述がさらに充実し、よりさまざまな背景をもつ母親へのエモーショナル・サポートについて記されている。

個人的には、「生後6週間～6か月に乳児が何を食べるか(人乳かその他の乳か)によって、遺伝子の環境による変容が起こる。この変容は環境に適応して起こり、少なくとも3世代にわたってひきつがれる」(p.127)というエピジェネティクス(後天的遺伝発現)に驚きつつ、母乳育児支援の重要さと支援者の責任を再認識した。

何ごとにも普遍的なことと変化すること(すべきこと)があるのが世の常であるが、育児別室や時間ごとの授乳をする施設もまだ少なくないと聞く。本書はIBCLC(国際認定ラクテーション・コンサルタント)を目指す人だけでなく、母乳育児を支援する多くの人に取り、活用すべき1冊であると思う。本書が日本において本当の意味での母乳育児支援のスタンダードになることを願う。

①